

2019年3月期

決算説明資料

レシップホールディングス株式会社

LECIP
GROUP

2019年 6月

▶ **1. 2019年3月期 通期業績の概要・主な項目の進捗状況**
:P3~P14

■ **2. 2020年3月期 通期業績予想**:P16~P18

■ **3. 中期経営計画:CA2020の取り組み状況**:P20~P27

■ **【ご参考資料】**:P29~P39

- 会社概要・事業内容
- 主な経営指標の推移
- 年間業績の推移
- 上期・下期別の業績推移
- 四半期別の業績推移

全般概況

前年比

売上高:



大幅増収

過去最高売上高更新

損益面:



大幅改善

黒字化

セグメント別業績の概況

➤ プラス要因

輸送機器事業

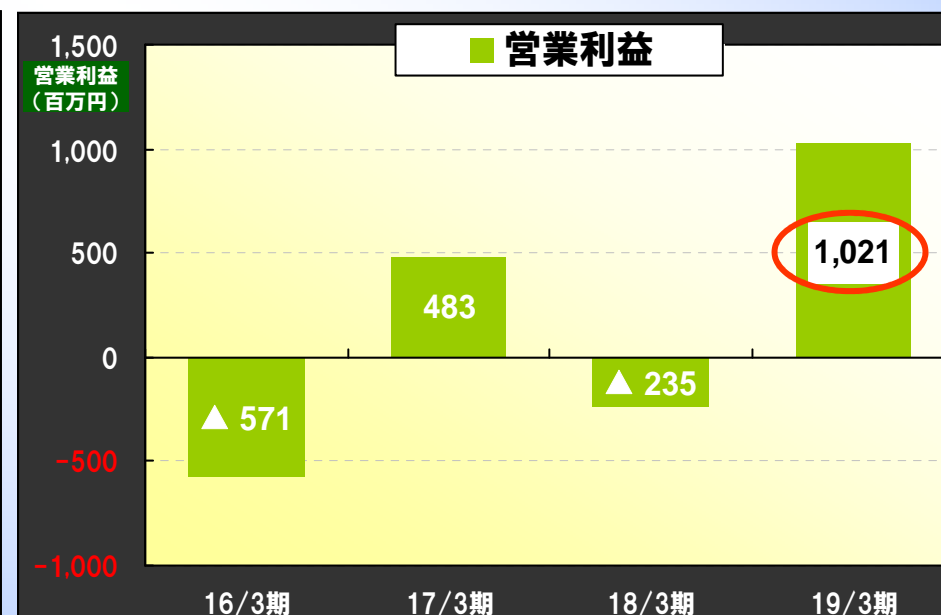
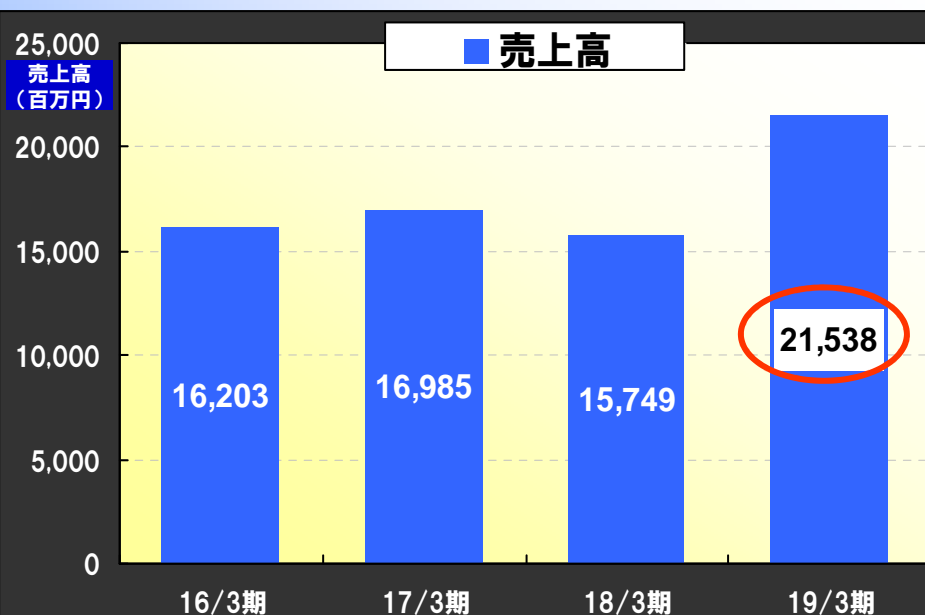
- 首都圏バス用ICカードシステムの更新需要を背景に、運賃箱やICカードリーダーライタなどの売上が大きく拡大。

産業機器事業

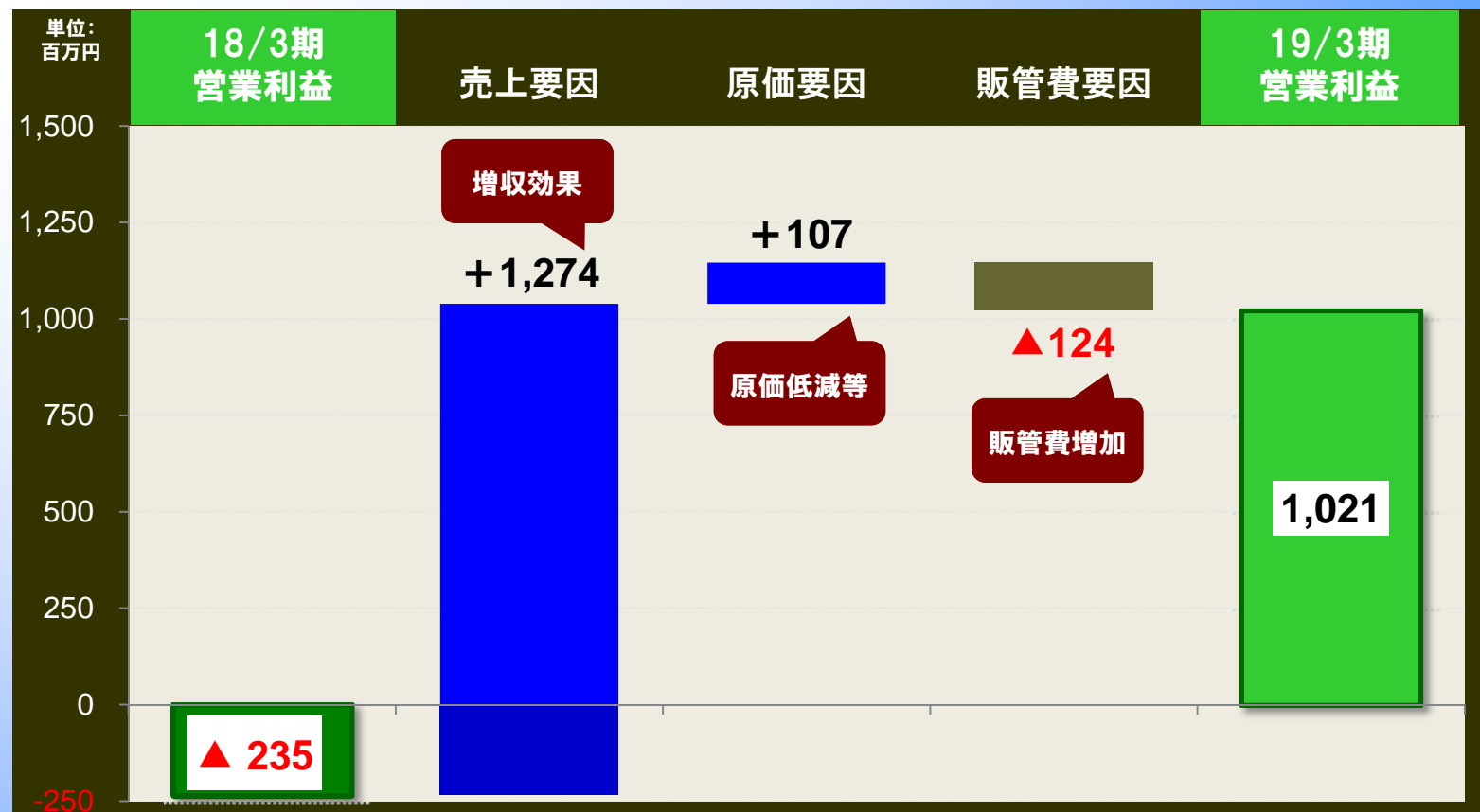
- 自動車の電子化が加速するなか、自動車向けプリント基板実装の受託が拡大。

2019年3月期:通期業績の要約

【連結】 通期業績 (単位:百万円)	2018年3月期		2019年3月期			
	① 通期実績	構成比	② 通期実績	構成比	前期比 増減額 ②-①	前期比 増減率
売上高	15,749	100.0%	21,538	100.0%	+5,789	+36.8%
売上総利益	3,466	22.0%	4,847	22.5%	+1,381	+39.8%
営業利益	▲235	▲1.5%	1,021	4.7%	+1,256	—
経常利益	▲248	▲1.6%	1,030	4.8%	+1,278	—
当期純利益	▲454	▲2.9%	438	2.0%	+893	—



2019年3月期:通期 営業利益の増減要因



- 売上要因 : 主力の輸送機器事業の売上が大きく拡大。
- 原価要因 : 受注損失引当金等の計上があったものの、商品構成の変化や原価低減等でカバー。
- 販管費要因 : 賞与引当金繰入額、事務委託費、運賃(運送費)等の増加。

2019年3月期:通期セグメント別業績



売上高 (単位:百万円)	2018年3月期		2019年3月期			
	通期実績	構成比	通期実績	構成比	増減額	増減率
輸送機器事業	10,785	68.5%	15,977	74.2%	+5,191	+48.1%
産業機器事業	4,919	31.2%	5,517	25.6%	+597	+12.1%
その他事業	43	0.3%	43	0.2%	+0.1	+0.3%
連結売上高	15,749	100.0%	21,538	100.0%	+5,789	+36.8%

営業利益 (単位:百万円)	2018年3月期		2019年3月期			
	通期実績	構成比	通期実績	構成比	増減額	増減率
輸送機器事業	▲267	144.8%	986	92.4%	+1,253	—
産業機器事業	75	▲41.0%	75	7.1%	+0.2	+0.3%
その他事業	6	▲3.8%	5	0.5%	▲1	▲25.8%
計	▲184	100.0%	1,067	100.0%	+1,251	—
消去・全社	▲50	—	▲46	—	+4	—
連結営業利益	▲235	—	1,021	—	+1,256	—

輸送機器事業：通期売上高・営業利益の推移



■ 売上高 : 前期比 ▲ + 51億91百万円 +48.1%
■ 営業利益 : 前期比 ▲ + 12億53百万円 — %

バス市場

前期比: +52億89百万円(+66.9%)

▶ 首都圏バス用ICカードシステムの更新需要を背景に、運賃箱やICカードリーダー、ソフトウェア等の売上が大きく拡大。



鉄道市場

前期比: ▲1億47百万円(▲8.2%)

▶ 北米で、鉄道車両用灯具の納入進むも、国内では、前年の鉄道用液晶表示器等大口案件の反動により、減収。



自動車市場

前期比: +50百万円(+4.7%)

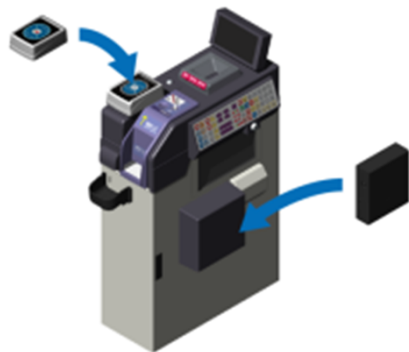
▶ トラック用LED灯具の販売が堅調に推移。



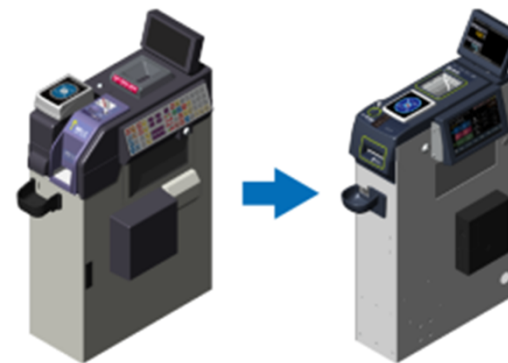
首都圏バス用ICカードシステムの更新

- 2007年3月にサービスインした首都圏バス用ICカードシステムの更新が、前期から始まる。
- 当社は、ICカードユニット(※)の交換と併せ、このタイミングで運賃箱を代替される事業者様への納入を進める。(※ ICカードユニット:ICリーダライタ及び制御ユニットのセット)
- 対象台数:首都圏のバス事業者様 約16,000台のうち、当社は、約12,000台分を担当。

ICカードユニットの交換
(運賃箱の改造)



運賃箱の代替



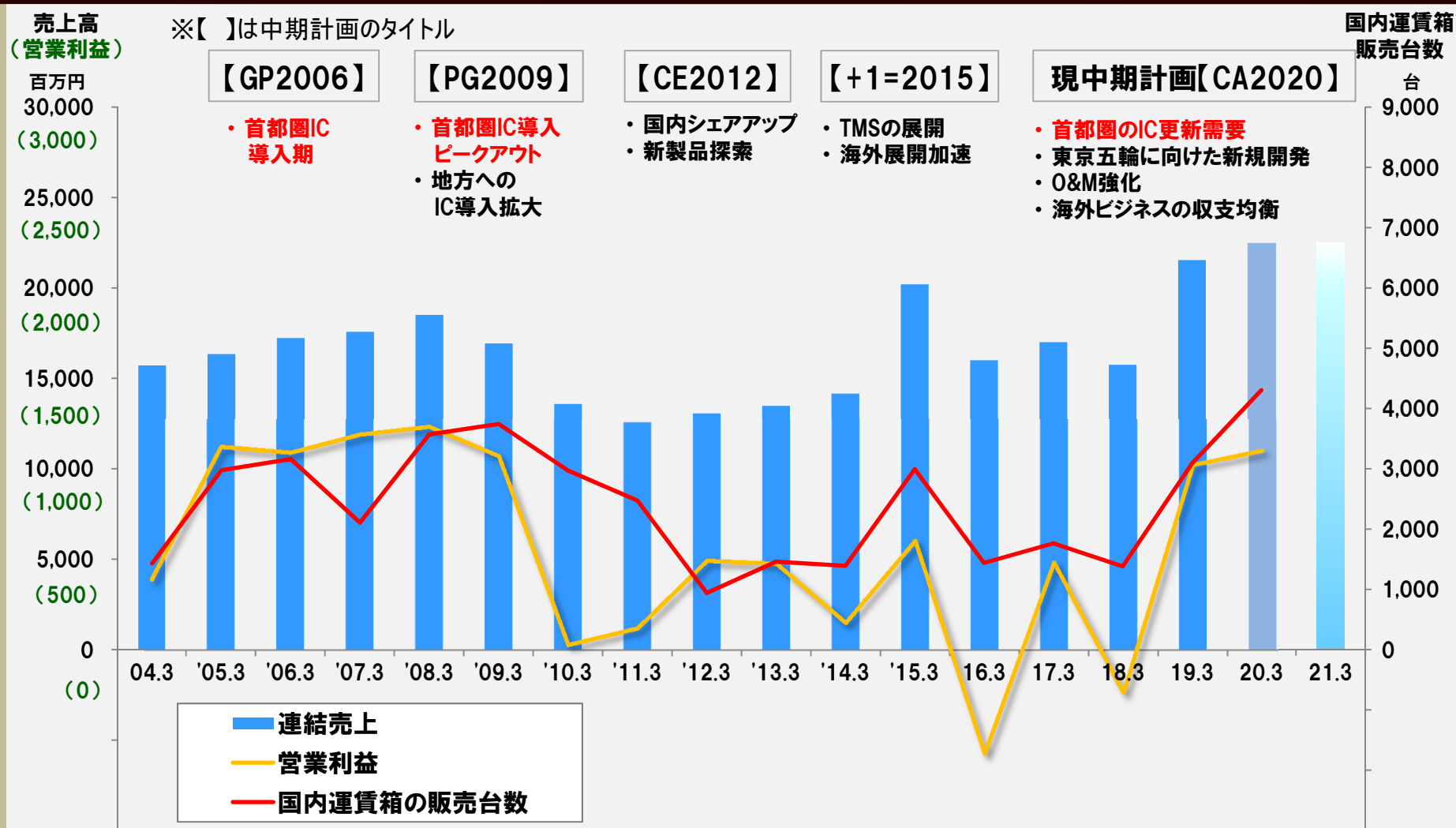
国内バス用運賃箱、ICカードユニット

バス用運賃箱、ICカードユニットの売上推移

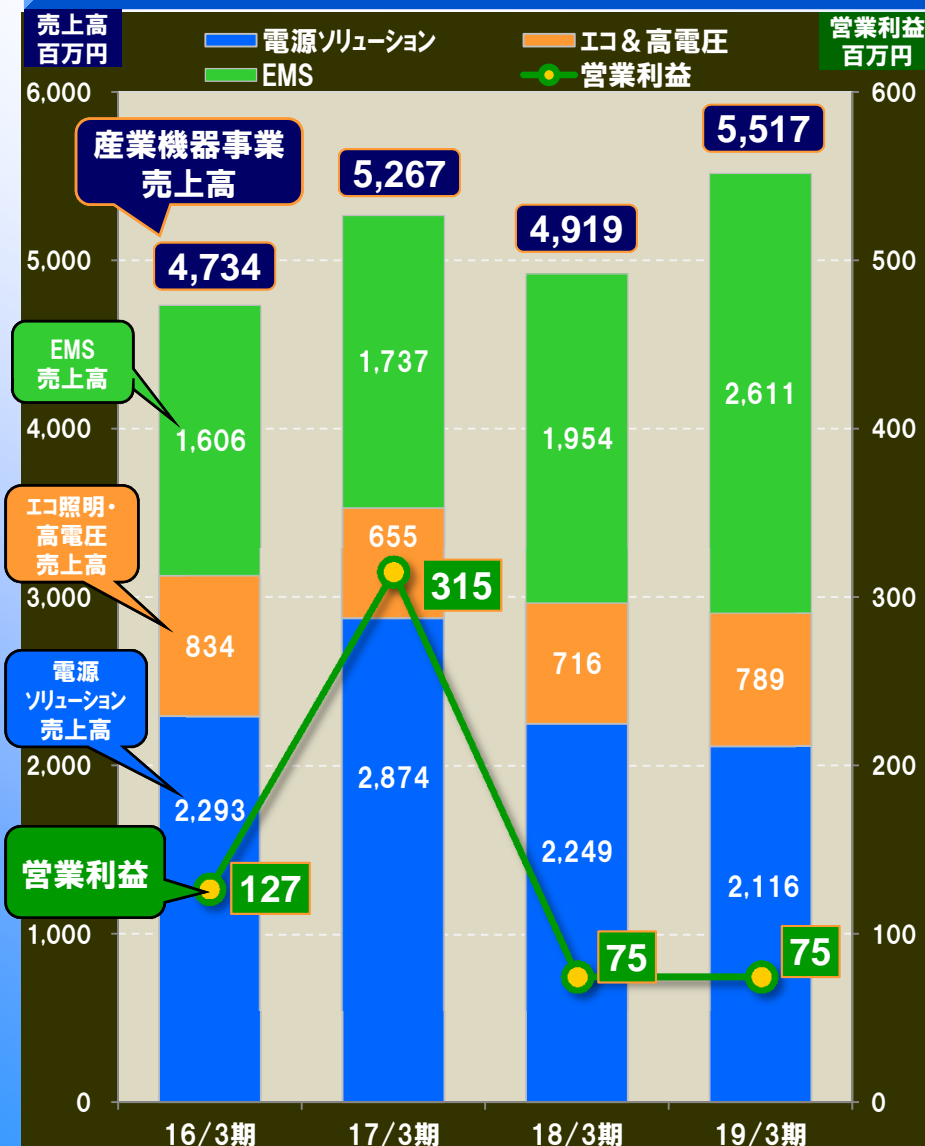


- 2019年3月期の売上高:57億68百万円。前期比 約3.2倍へと大幅拡大。
- 今期2020年3月期も、更なる拡大続く見通し。

▶ (ご参考):バス用運賃箱の販売台数と業績推移



▶ 産業機器事業：通期売上高・営業利益の推移



■ 売上高 : 前期比 **▲** + 5億97百万円 +12.1%
 ■ 営業利益: 前期比 **▲** +0百万円 +0.3%

電源ソリューション市場

前期比: **▲**1億33百万円(▲5.9%)

▶ フォークリフト用充電器の販売は好調に推移するも、前年にあった通信基地局向け無停電電源装置の大口案件の反動等により減収。



エコ照明・高電圧ソリューション市場

前期比: +73百万円(+10.2%)

▶ ガソリンスタンドやコンビニ等の店舗看板の掛け替えが進むなか、LED電源の販売が好調に推移。



EMS市場

前期比: +6億57百万円(+33.6%)

▶ 自動車の電子化が加速するなか、自動車向けプリント基板実装の受託が大きく拡大。



連結損益計算書



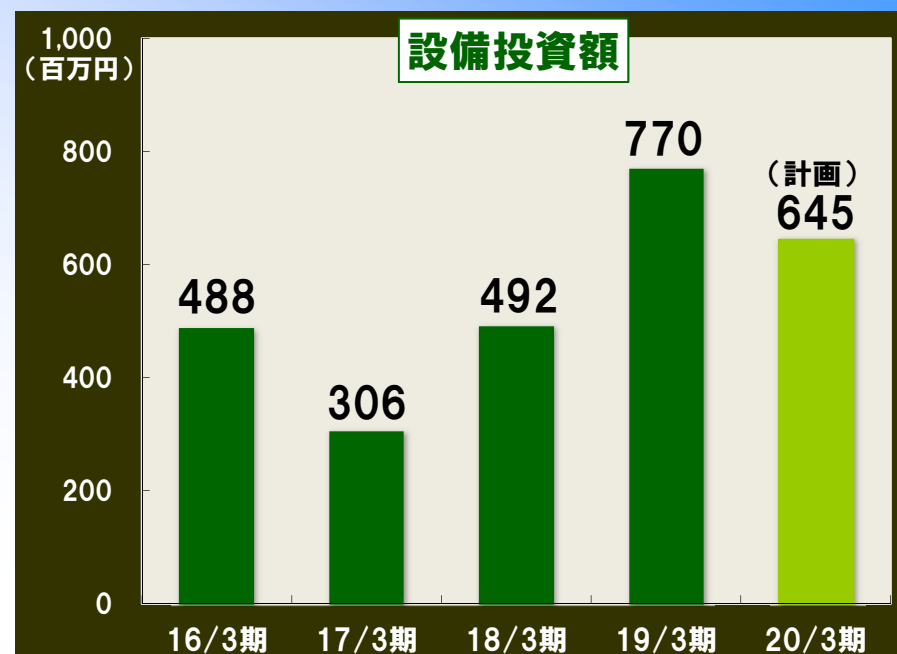
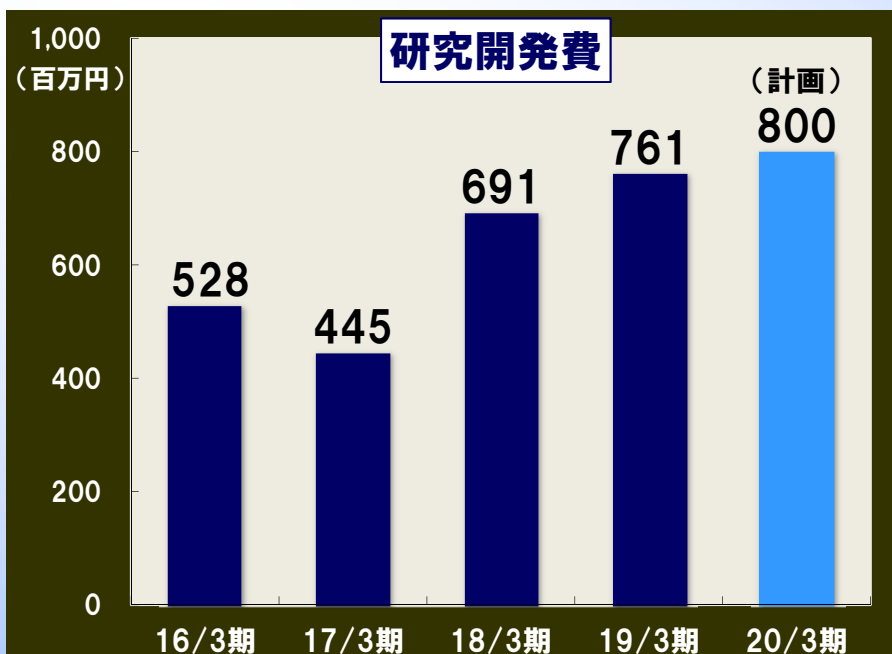
【連結P/L】	2018年3月期		2019年3月期			
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	主な増減要因
売上高	15,749	100.0	21,538	100.0	+5,789	
売上原価	12,282	78.0	16,690	77.5	+4,408	
売上総利益	3,466	22.0	4,847	22.5	+1,381	
販売管理費	3,701	23.5	3,826	17.8	+124	賞与引当金繰入額: +44百万円、 事務委託費: +21百万円、 運賃(運送費): +12百万円
営業利益	▲235	▲1.5	1,021	4.7	+1,256	
営業外収益	27	0.2	50	0.2	+23	受取補償金: +16百万円
営業外費用	40	0.3	42	0.2	+1	
経常利益	▲248	▲1.6	1,030	4.8	+1,278	
特別利益	9	0.1	73	0.3	+63	受取保険金(台風被害): +58百万円、 受取和解金: +14百万円
特別損失	15	0.1	75	0.4	+60	災害(台風被害)による損失: +38百万円、 投資有価証券評価損: +15百万円
税金等調整前純利益	▲253	▲1.6	1,027	4.8	+1,281	
法人税等合計	200	1.3	588	2.7	+388	
当期純利益	▲454	▲2.9	438	2.0	+893	

連結貸借対照表



【連結B/S】	2018年3月期末		2019年3月期末			
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	主な増減要因
流動資産	9,515	76.3	13,111	79.7	+3,596	受取手形及び売掛金: +2,395百万円 現金及び預金 : +685百万円、 商品及び製品 : +365百万円、 仕掛品 : +191百万円
固定資産	2,950	23.7	3,334	20.3	+384	有形固定資産 : +220百万円、 無形固定資産 : + 0百万円、 投資その他の資産: +163百万円
資産合計	12,465	100.0	16,445	100.0	+3,980	
流動負債	8,326	66.8	11,785	71.7	+3,459	短期借入金: +1,236百万円、 未払金 : +530百万円、 支払手形及び買掛金: +500百万円、 未払法人税等: +383百万円、 電子記録債務: +285百万円、 受注損失引当金: +224百万円
固定負債	1,153	9.3	1,232	7.5	+79	長期借入金: ▲159百万円、 リース債務(固定): +192百万円、 役員BIP信託引当金: +27百万円、 従業員株式付与引当金: +24百万円
負債合計	9,479	76.0	13,018	79.2	+3,538	
純資産合計	2,985	24.0	3,427	20.8	+441	利益剰余金: +345百万円
負債・純資産合計	12,465	100.0	16,445	100.0	+3,980	

研究開発費及び設備投資



● **研究開発費：キャッシュレス決済に向けた対応を進める。**

・2019/3月期：前期比増加。

⇒ ICカード中継機、バス運行支援ユニット「LIVU」、海外向けキャッシュレス決済対応運賃収受機器 等

・2020/3月期：引き続き、増加見込む。

⇒ バス運行支援ユニット「LIVU」の機能拡充、QRコード乗車券システム、海外向けキャッシュレス決済対応運賃収受機器 等

● **設備投資額：**

・2019/3月期：前期比増加。

⇒ 自動車向けプリント基板実装ラインの拡充、社内ITインフラ(生産・販売管理システム等)の更新 等

・2020/3月期：前年にあったプリント基板実装ラインの拡充が一段落したことにより、減少見込み。

⇒ 社内ITインフラ、建物付属設備(空調機等)の更新 等

1. 2019年3月期 通期業績の概要・主な項目の進捗状況
:P 3~P14

▶ 2. 2020年3月期 通期業績予想:P16~P18

3. 中期経営計画:CA2020の取り組み状況:P20~P27

■ **【ご参考資料】:P29~P39**

- 会社概要・事業内容
- 主な経営指標の推移
- 年間業績の推移
- 上期・下期別の業績推移
- 四半期別の業績推移

通期業績予想のポイント

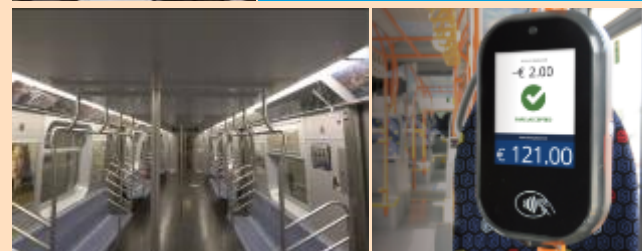
▶ **増収増益予想。2期連続で、過去最高売上高更新見通し。**

セグメント

前期比 増収増益予想:内容

輸送
機器

- 引き続き、首都圏バス用ICカードシステム更新に係る売上が拡大する見通し。
- バス運行支援ユニット「LIVU(LECIP Intelligent Vehicle Unit)」の拡販進める。
- 米国において、鉄道車両用灯具の納入を予定。
- 欧州において、様々なキャッシュレス決済に対応可能な公共交通機関向け運賃収受機器の拡販進める。



産業
機器

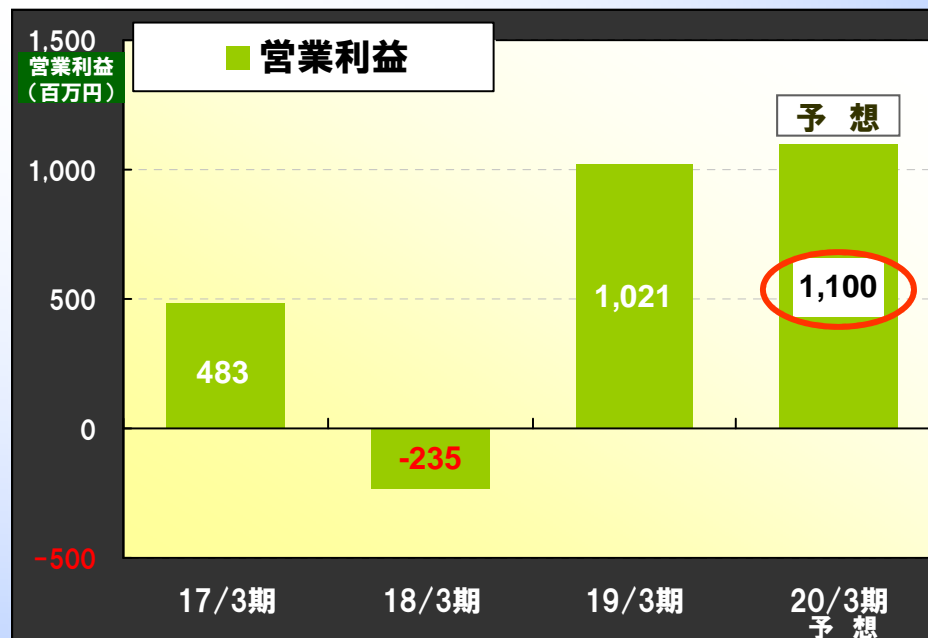
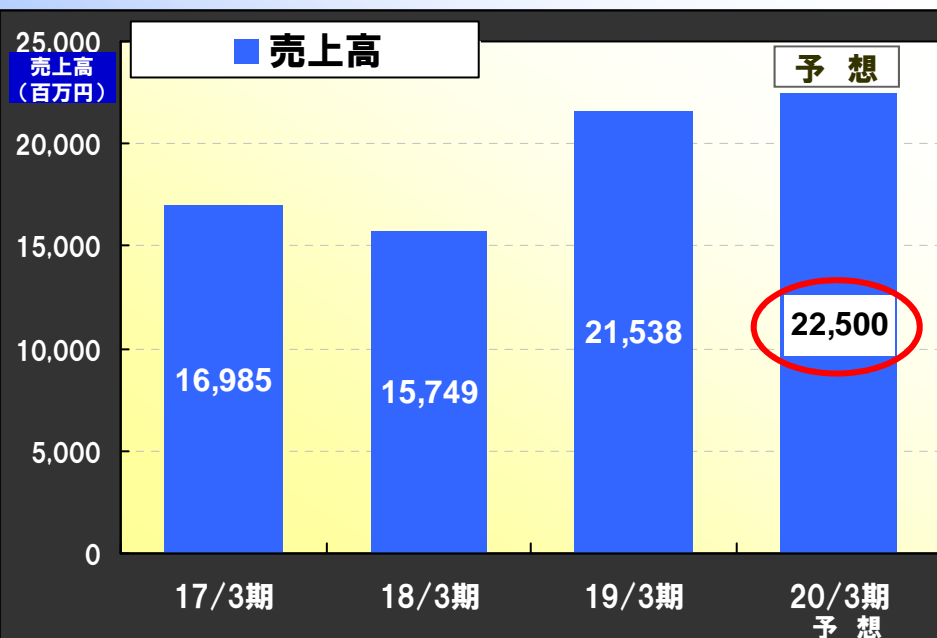
- 引き続き、自動車向けプリント基板実装の受託が好調に推移する見通し。
- CATV用無停電電源装置やバッテリー式フォークリフト用充電器などの増加見込む。

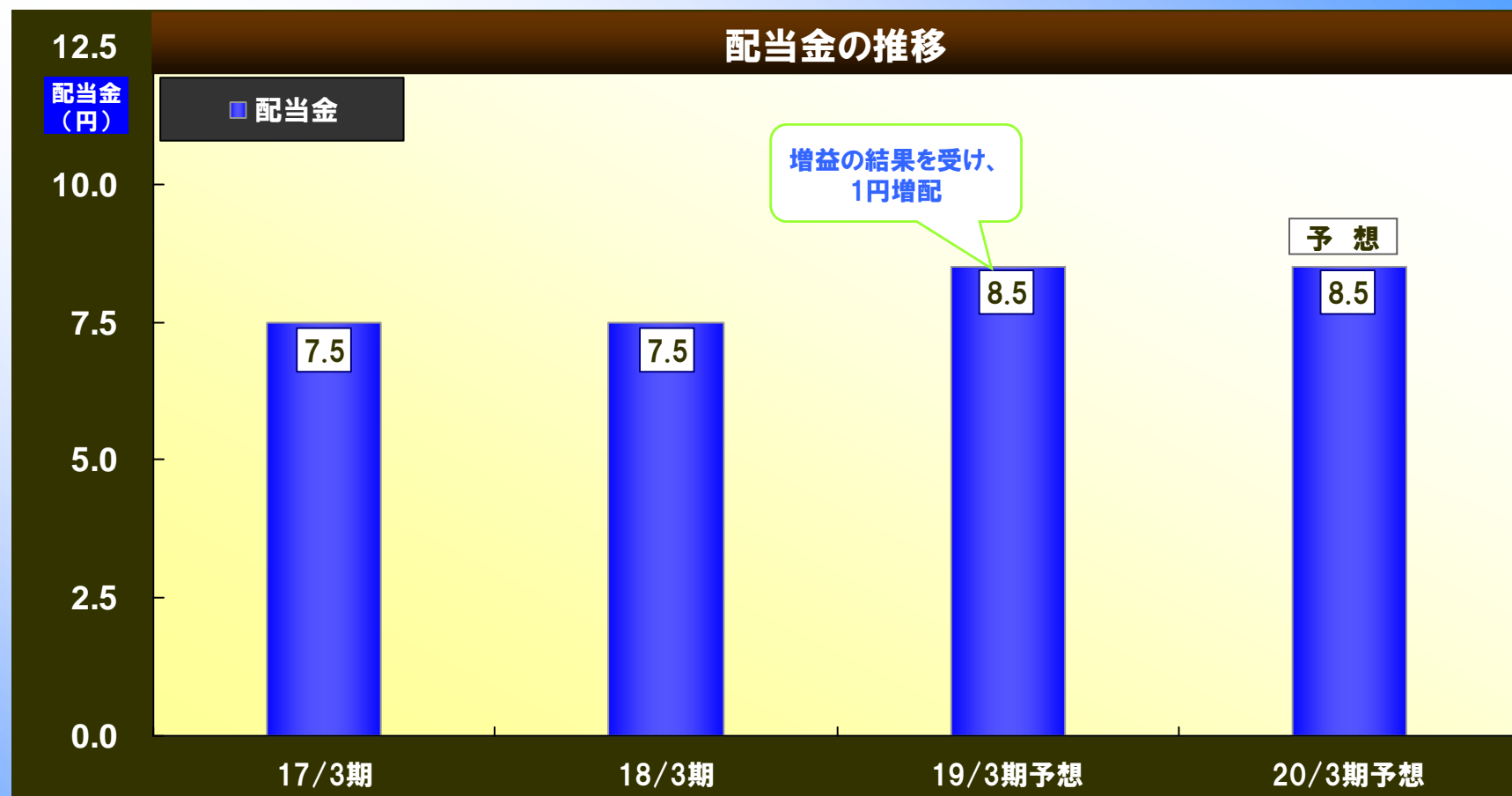


2020年3月期:通期業績予想



連結業績予想	2019年3月期 実績 (百万円)	構成比 (%)	2020年3月期 業績予想 (百万円)	構成比 (%)	前期比 増減額 (百万円)	前期比 増減率 (%)
売上高	21,538	100.0%	22,500	100.0%	+961	+4.5%
営業利益	1,021	4.7%	1,100	4.9%	+78	+7.7%
経常利益	1,030	4.8%	1,100	4.9%	+69	+6.8%
当期純利益	438	2.0%	450	2.0%	+11	+2.7%
E P S (円)	38円75銭	—	39円64銭	—	+0円89銭	+2.3%





- 2019年3月期の配当は、**1円の増配**となる**8円50銭**
- 2020年3月期の配当予想も、引き続き、**8円50銭を維持**
- 継続的かつ安定的な利益還元に努める

1. 2019年3月期 通期業績の概要・主な項目の進捗状況
:P 3~P14

2. 2020年3月期 通期業績予想:P16~P18

▶ 3. 中期経営計画:CA2020の取り組み状況:P20~P27

【ご参考資料】:P29~P39

- 会社概要・事業内容
- 主な経営指標の推移
- 年間業績の推移
- 上期・下期別の業績推移
- 四半期別の業績推移

【中期経営計画:CA2020】

期 間

2016年4月～2021年3月までの5年間

タイトル

「Challenge Again 2020 (CA2020)」
～安定的な売上200億円に向けて、チャレンジ・アゲイン～

重点課題

1. 「MaaSの実現に向けた新しい価値の創造」
2. 「育成分野への経営資源のスムーズな移行」
3. 「海外ビジネスの黒字化」
4. 「業務プロセス改善による生産性の向上」



「MaaS」の実現に向けて

MaaSの概念 Mobility-as-a-Service

A地点からB地点に市民が移動する際に、鉄道・バス・タクシー・カーシェア・バイクシェア・徒歩等の様々な移動手段の中で最適な手段を最適な価格で系統的に提供できるプラットフォームを、社会が市民に提供するという概念。

当社グループとしては、全体のシステムの最適化に向け、下記の分野において貢献を果たす。

◆ Ticketing & Fare Collection

発券及び運賃収受

◆ Planning, Reporting & Analyzing

計画、報告、分析

◆ Operation Support & Real-Time Passenger Information

運行支援及びリアルタイム乗客情報サービス

◆ Fleet Management

車両管理

運行支援ユニット「LIVU」の拡販 ～ バス運行業務の軽減化 ～

LECIP 路線バス 運行支援システム

【 案内機能 (一例) 】

GPS

クラウドサーバ

後方支援

アプリ-2 案内放送

アプリ-1 自動歩進

大型案内表示

アプリ-3 バスロケーション

ひとつのユニットにアプリを入れることで音声放送やバスロケーション等の機能が実現できます。

【 案内機能 (一例) 】

LIVU

GPSアンテナ 通信アンテナ OBC/VISION 乗客表示器 マイコン制御スピーカー



- 路線バスの運行を支援するプラットフォーム型のユニット「LIVU:(LECIP Intelligent Vehicle Unit)」の拡販推進。
- **バスの運行業務を支援**する様々な機能の提供が可能。

【 主な機能 】

- ・GPS活用による、車内の自動案内放送機能
- ・運賃表示器・運賃データの自動更新機能 など

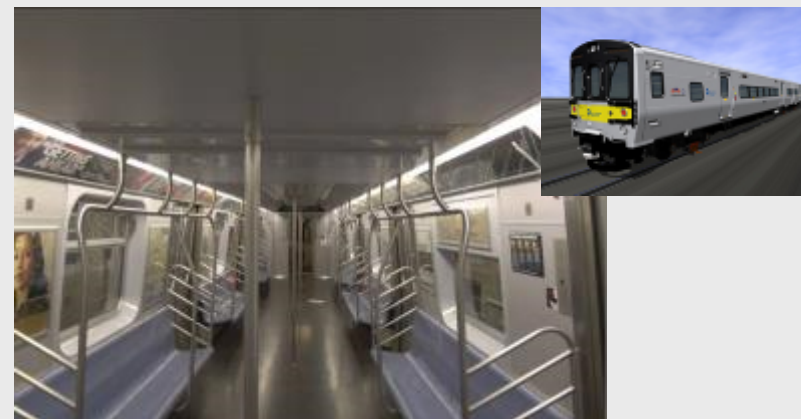
- 将来的には、**バス車載機器の自動化**における中心的な役割を果たす製品として、路線バスへの標準搭載を目指す。

海外ビジネス展開

- 米国市場 ～ バス用新型運賃箱の開発、鉄道車両用灯具の大口案件の納入準備を進める ～



米国向けAFC
(自動運賃收受システム)



米国向け鉄道車両用灯具

● バス用AFC(自動運賃收受)システム

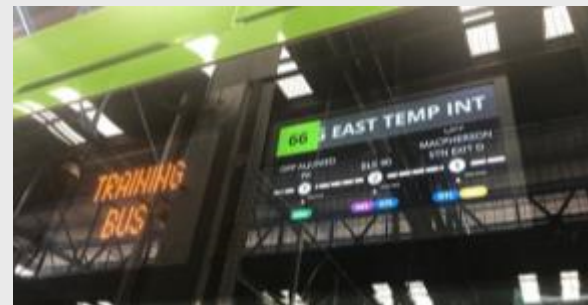
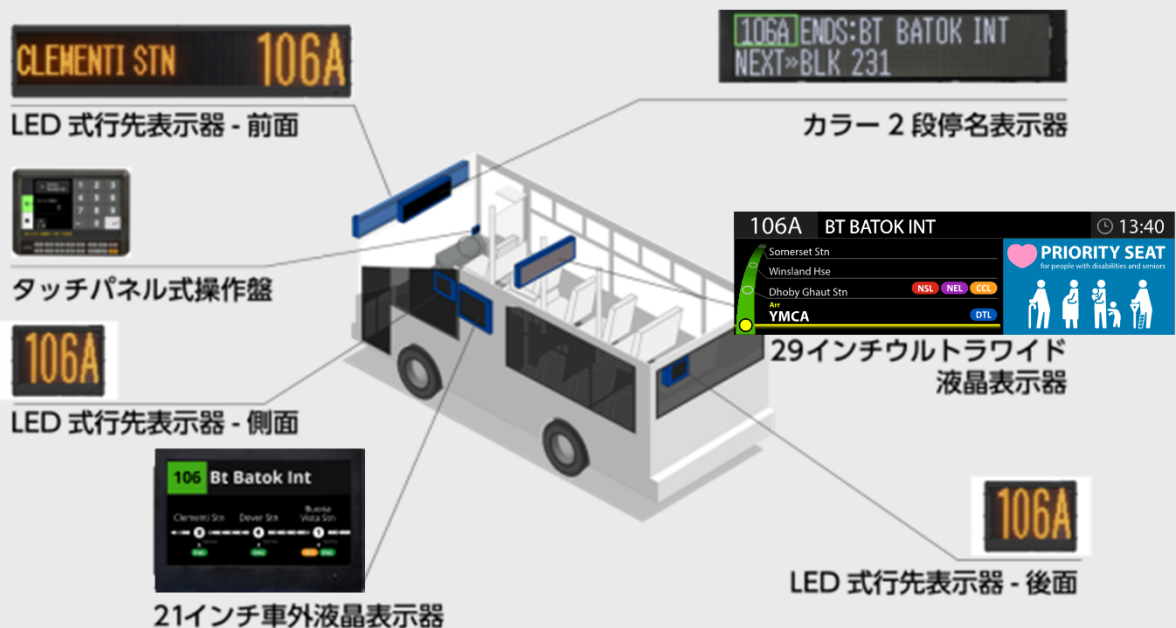
- ▶ ポテンシャルは日本の2倍以上 (日本の58,000台に対して米国140,000台)
- ▶ 2016年7月:ワシントン州クラーク郡交通局様、2018年3月:オレゴン州ローグバレイ交通局様に納入。
- ▶ バス事業者様の幅広いニーズに対応可能な、**新型運賃箱を開発**。更なる受注拡大に繋げていく。

● 鉄道車両用灯具の受注活動を推進

- ▶ 日系車両メーカー及び現地の交通事業者との連携を強化。
- ▶ **NYの通勤車両向け照明灯具を受注**。2017年8月より現地生産を開始。現在納入中。
- ▶ 2018年度に、**NYの地下鉄車両向け照明灯具の大口案件を受注**。2019年度より納入予定。

海外ビジネス展開

● シンガポール市場 ～ 従来の運賃収受機器ビジネスに加え、乗客情報表示器ビジネスを育成 ～



ハイブリッドバスに導入した表示システム

- 公共交通の先進国シンガポール市場での販売を強化。
 - ▶ 当社は、長年、バス用機器の納入を行っており、バス用運賃箱と発券機は、現地で100%のシェアを獲得。
- シンガポール政府主導のバス利用客へのインフォメーションサービスを拡充する施策に参画。
 - ▶ 2018年11月、ハイブリッドバス向けに、LED式行先表示器や液晶表示器などの乗客情報表示システムを納入。
 - ▶ 今回の納入は50台だが、今後更なる受注拡大に繋げる(ポテンシャルとしては、シンガポールのバス5,500台が対象)。
 - ▶ タイなどの周辺国への営業活動にも注力し、より大きなビジネスへ。

海外ビジネス展開

- 海外市場向け新型バリデータ(運賃収受機器)を開発 ~ 様々なキャッシュレス決済に対応可能 ~



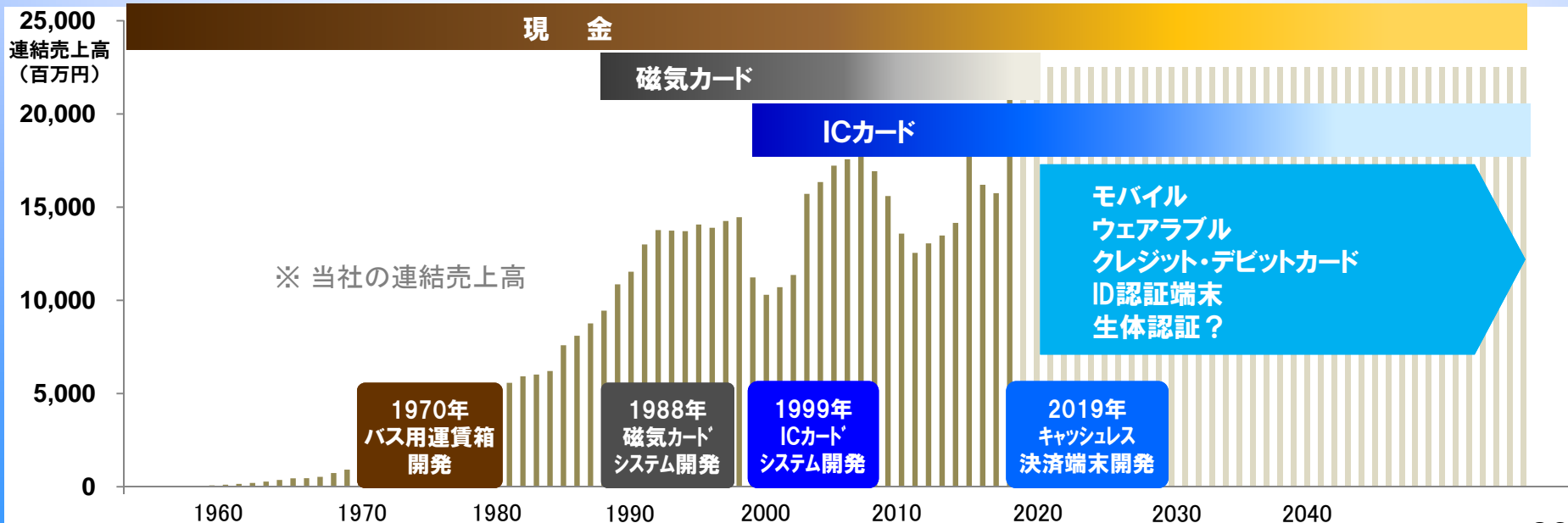
- スウェーデンの連結子会社 LECIP ARCONTIAにて、**様々なキャッシュレス決済に対応する、海外市場向け新型バリデータ(運賃収受機器)を開発。**
 - ▶ 今後トレンドとなるキャッシュレス決済の対応機能を一体化。
(バーコード、QRコード、非接触ICカード、EMVコンタクトレス、NFC等)
- 2019年6月より販売開始。2022年までに10,000台の販売を目指す。
 - ▶ まずは、キャッシュレス決済が浸透している欧州市場をターゲットとし、その後、アジアにも展開予定。

車上での決済手段の潮流

● キャッシュレス社会・自動運転(無人運転)化に向けた、新たな決済手段の登場。

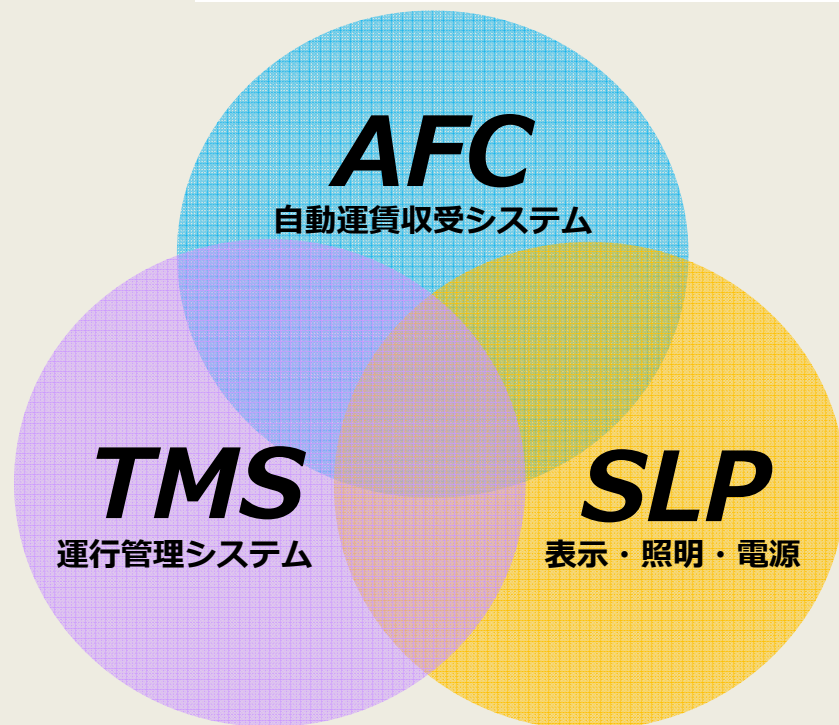
- ▶ 海外では、非接触クレジットカード対応や、QRコードを使ったモバイルペイメントによる決済が増加。
- ▶ 日本国内においても、経済産業省が、キャッシュレス決済の比率を2025年までに4割へ高める目標を掲げる。
- ▶ 当社も、今後の方向性を見極めるべく、産官学連携の「キャッシュレス推進協議会」に加入。

～1960年代	1970～202X年		202X年～
車掌による現金收受	ワンマン機器の導入	デジタル化(自動計算)	自動收受
ツーマン運転の時代	ワンマン運転の時代		自動運転(無人運転)の時代



当社の目指す事業構成

当面の課題：TMSを事業の柱として育てること



AFC 自動運賃収受システム Automated Fare Collection System

- ① キャッシュレスビジネスの拡大
- ② 後方系システムの機能拡張

TMS 運行管理システム Transit Management System

- ① リアルタイム通信技術を活用した新サービス
- ② 自社取得データとオープンデータとの連携による分析
- ③ IoTの促進、PTPS（公共車両優先システム）との連携

SLP 表示・照明・電源 Sign, Lighting & Power Supply

- ① エクステリアライトの新商材投入
- ② スマートシティ、エネルギー分野での新製品の創造
- ③ 電源機器と通信機器との連動による遠隔管理

**AFC・TMS・SLP 3つの事業要素を融合することで、
プラスワンの新しい戦略商品・システムを開発する。**

1. 2019年3月期 通期業績の概要・主な項目の進捗状況
:P 3~P14

2. 2020年3月期 通期業績予想:P16~P18

3. 中期経営計画:CA2020の取り組み状況:P20~P27

【ご参考資料】:P29~P39

- 会社概要・事業内容
- 主な経営指標の推移
- 年間業績の推移
- 上期・下期別の業績推移
- 四半期別の業績推移

会社名	レシップホールディングス株式会社 (LECIP HOLDINGS CORPORATION)
設立	1953年3月
代表者	代表取締役社長 杉本 眞
本社所在地	岐阜県本巣市上保1260番地の2
資本金	7億3,564万円
発行済株式総数	12,798,200株
上場証券取引所	東証一部、名証一部（証券コード:7213）
連結対象会社	9社（国内5社、海外4社）
連結従業員数 (2019年3月末現在)	578名（国内:541名、海外37名）

グループ体制

レシップホールディングス株式会社
LECIP HOLDINGS CORPORATION

レシップ株式会社
LECIP CORPORATION

レシップエスエルピー株式会社
LECIP SLP CORPORATION

レシップ電子株式会社
LECIP ELECTRONICS CORPORATION

レシップエンジニアリング株式会社
LECIP ENGINEERING CORPORATION

LECIP INC.

LECIP (SINGAPORE) PTE LTD

LECIP THAI CO., LTD.

LECIP ARCONTIA AB

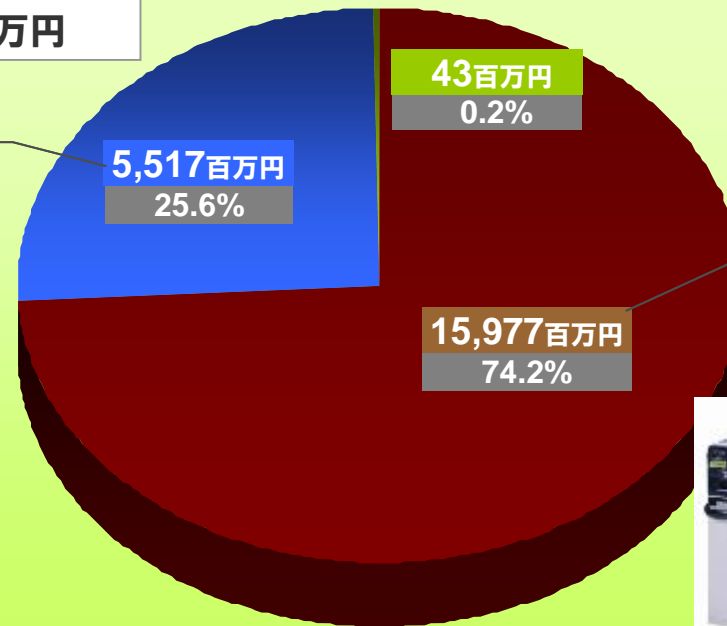
輸送機器事業

産業機器事業

【ご参考】2019年3月期 通期の事業セグメント別売上高

19/3期 連結売上高:21,538百万円

【産業機器事業】
充電器、無停電電源装置、
LED電源、
プリント基板実装



- 輸送機器
- 産業機器
- その他

【輸送機器事業】
バス・鉄道用運賃箱、
ICカードシステム、
OBC(液晶表示器)、
LED式行先表示機器、
車載用照明機器



市民体育館前				四軒家西口			
1	2	3	4	1	2	3	4
2030	1030	980	930	↓	四軒家		
5	6	7	8	↓	本地ヶ原		
880	830	780	730				
9	10	11	12				
680							

輸送機器事業

● バス市場向け製品



バス用機器搭載イメージ図

- 国内唯一の、「バス用電装機器トータルサプライヤー」ワンストップソリューションを実現
- バス用ICカードシステムのパイオニア
- 多くの製品で国内トップシェアを獲得

● 鉄道市場向け製品



ワンマン鉄道用
運賃箱

車内設置型ICカードシステム

車両用照明灯具

- ワンマン鉄道用機器と、車両用照明灯具を展開
- 鉄道用ワンマン機器は、国内90%以上のシェアを獲得

● 自動車市場向け製品



自動車用照明灯具(車内・荷室内照明用)

LED灯具

- 自動車用蛍光灯具のパイオニア、国内トップシェアを獲得
- LED灯具の拡販推進

産業機器事業



フォークリフト用充電器



無停電電源装置・屋外用電源装置



LED電源と蛍光灯型LED灯具



プリント基板実装ライン

- フォークリフト用充電器で国内トップシェアを獲得
- CATV基地局・通信基地局向け無停電電源装置などの、各種電源装置を展開
- LED電源、蛍光灯型LED灯具の拡販推進
- 連結子会社 レシップ電子において、プリント基板実装事業を展開。自動車向けの受託が拡大

【ご参考】: 主な経営指標の推移



(単位: 百万円)

主な経営成績 指標の推移	2004/3期	2005/3期	2006/3期	2007/3期	2008/3期	2009/3期	2010/3期	2011/3期	2012/3期	2013/3期
売上高	15,717	16,346	17,233	17,572	18,511	16,933	13,585	12,551	13,059	13,480
営業利益	400	1,122	1,089	1,189	1,232	1,070	29	121	493	477
営業利益率 (%)	(2.5)	(6.9)	(6.3)	(6.8)	(6.7)	(6.3)	(0.2)	(1.0)	(3.8)	(3.5)
経常利益	390	1,124	1,086	1,191	1,208	1,104	64	154	514	526
経常利益率 (%)	(2.5)	(6.9)	(6.3)	(6.8)	(6.5)	(6.5)	(0.5)	(1.2)	(3.9)	(3.9)
当期純利益	▲100	654	622	668	686	521	41	46	132	292
当期純利益率 (%)	(▲0.6)	(4.0)	(3.6)	(3.8)	(3.7)	(3.1)	(0.3)	(0.4)	(1.0)	(2.2)
総資産	10,267	10,529	10,512	11,533	11,470	10,417	10,521	9,698	10,347	9,791
純資産	1,888	2,519	3,895	4,408	4,995	5,339	5,289	5,275	5,308	4,755
自己資本比率 (%)	(18.4)	(23.9)	(37.1)	(38.2)	(43.5)	(51.2)	(50.3)	(54.4)	(51.3)	(48.6)
EPS(円)	▲9.02	53.85	48.14	52.34	53.69	40.80	3.27	3.67	10.40	23.43
ROE (%)	—	29.7	19.4	16.1	14.6	10.1	0.8	0.9	2.5	5.8
BPS(円)	169.18	220.83	299.82	344.91	390.83	417.74	413.82	412.80	415.38	438.69

※2014年4月を効力発生日として、普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。
株式分割前のEPS、BPSにつきましても、株式分割後の株数の基準でもって、算定し直し、現在と同じ基準で表示を行っております。

2014/3期以降の
続きは、次ページへ

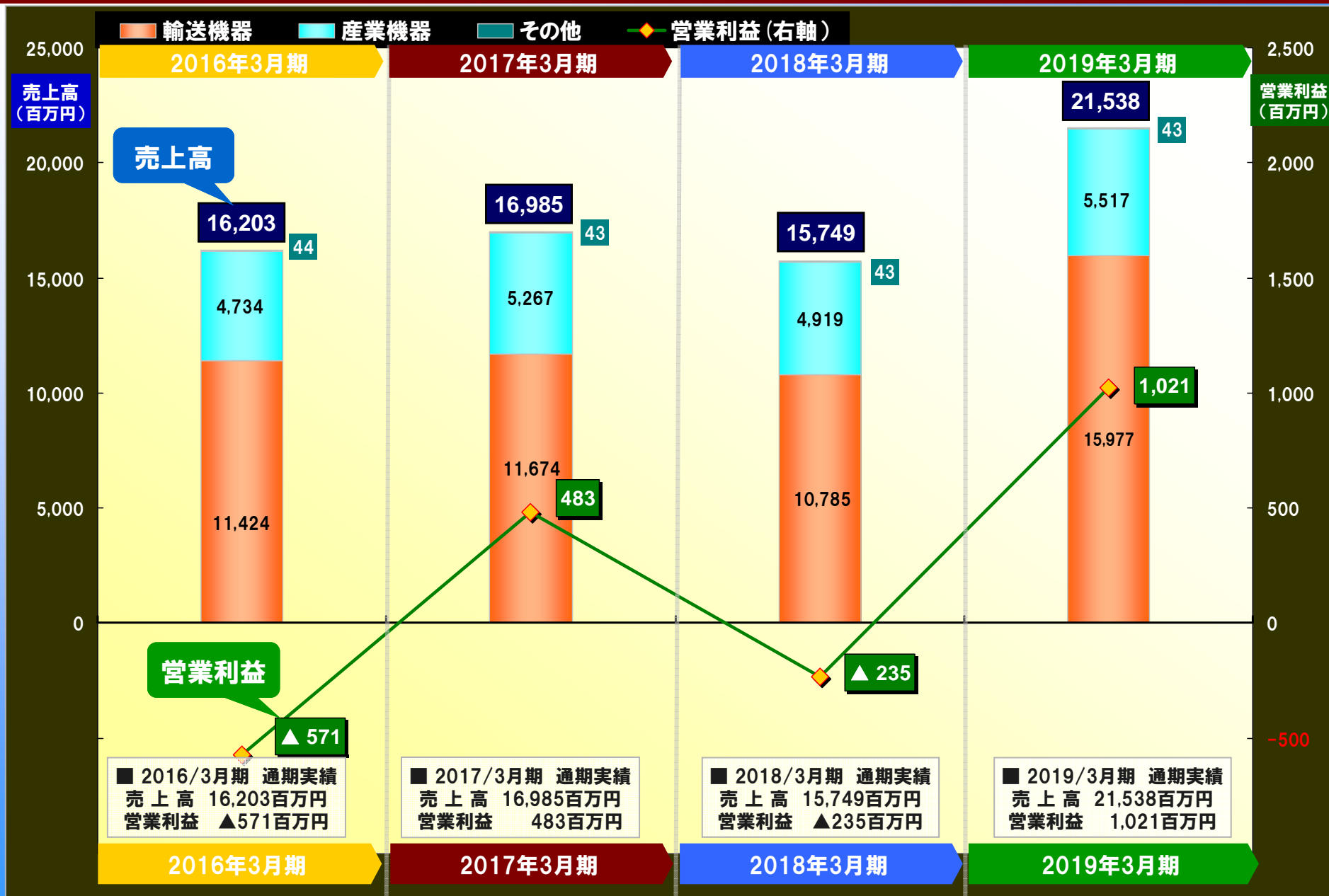
【ご参考】: 主な経営指標の推移



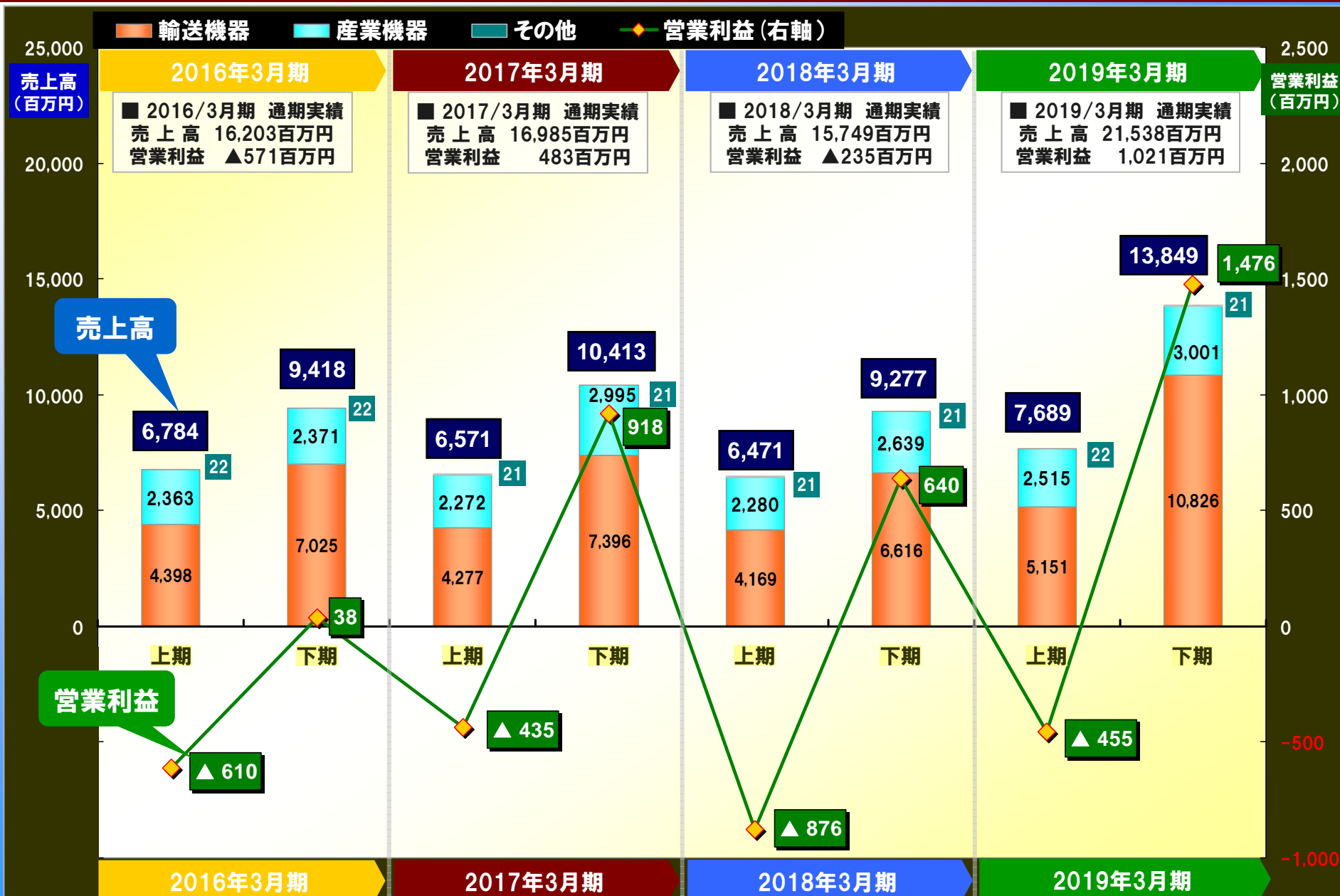
(単位:百万円)

主な経営成績 指標の推移	2014/3期	2015/3期	2016/3期	2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期 予想
売上高	14,157	20,215	16,203	16,985	15,749	21,538	22,500
営業利益	151	603	▲571	483	▲235	1,021	1,100
営業利益率(%)	(1.1)	(3.0)	(▲3.5)	(2.8)	(▲1.5)	(4.7)	(4.9)
経常利益	164	779	▲649	354	▲248	1,030	1,100
経常利益率(%)	(1.2)	(3.9)	(▲4.0)	(2.1)	(▲1.6)	(4.8)	(4.9)
当期純利益	▲98	227	▲1,378	50	▲454	438	450
当期純利益率(%)	(▲0.7)	(1.1)	(▲8.5)	(0.3)	(▲2.9)	(2.0)	(2.0)
総資産	12,677	14,431	13,173	13,048	12,465	16,445	—
純資産	4,614	4,637	3,277	3,499	2,985	3,427	—
自己資本比率(%)	(36.4)	(32.1)	(24.9)	(26.8)	(24.0)	(20.8)	—
EPS(円)	▲9.05	20.76	▲125.25	4.59	▲40.91	38.75	39.64
ROE(%)	▲2.1	4.9	▲34.8	1.5	▲14.0	13.7	—
BPS(円)	422.21	422.30	297.03	315.51	267.56	301.92	—

【ご参考】:年間業績の推移



【ご参考】: 上期・下期別の業績推移



【ご参考】: 上期・下期別の業績推移

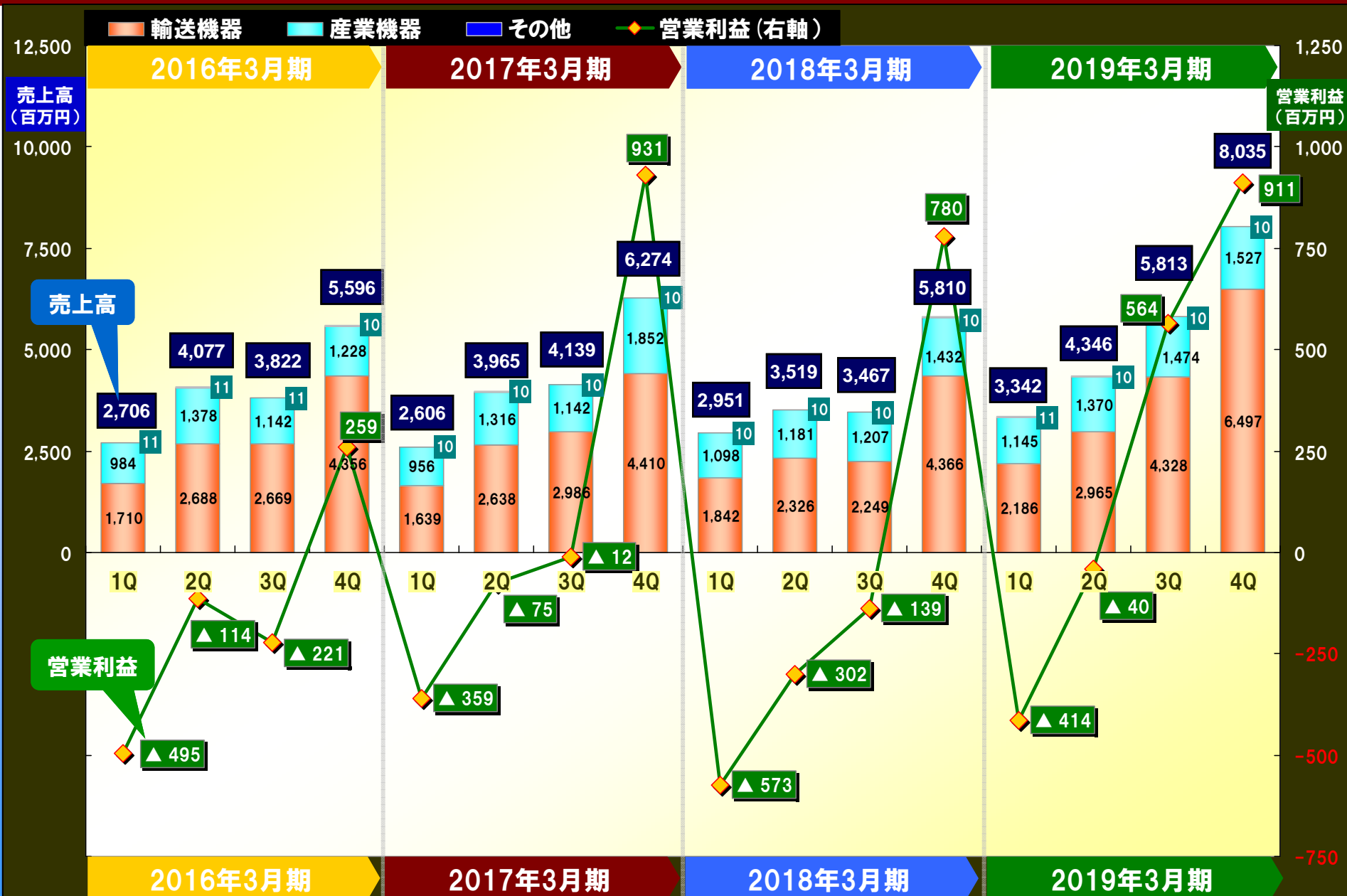


(単位: 百万円)

売上高	2016年3月期			2017年3月期			2018年3月期			2019年3月期		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
輸送機器	4,398	7,025	11,424	4,277	7,396	11,674	4,169	6,616	10,785	5,151	10,826	15,977
産業機器	2,363	2,371	4,734	2,272	2,995	5,267	2,280	2,639	4,919	2,515	3,001	5,517
その他	22	22	44	21	21	43	21	21	43	22	21	43
売上高合計	6,784	9,418	16,203	6,571	10,413	16,985	6,471	9,277	15,749	7,689	13,849	21,538

営業利益	2016年3月期			2017年3月期			2018年3月期			2019年3月期		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
輸送機器	▲605	▲33	▲638	▲446	672	226	▲802	535	▲267	▲441	1,427	986
産業機器	46	80	127	40	274	315	▲50	126	75	8	67	75
その他	2	3	6	1	1	3	2	4	6	3	1	5
全社・消去	▲54	▲12	▲67	▲31	▲30	▲61	▲26	▲24	▲50	▲25	▲20	▲46
営業利益合計	▲610	38	▲571	▲435	918	483	▲876	640	▲235	▲455	1,476	1,021

【ご参考】: 四半期別の業績推移



【ご参考】: 四半期別の業績推移



(単位:百万円)

売上高	2016年3月期				2017年3月期				2018年3月期				2019年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
輸送機器	1,710	2,688	2,669	4,356	1,639	2,638	2,986	4,410	1,842	2,326	2,249	4,366	2,186	2,965	4,328	6,497
産業機器	984	1,378	1,142	1,228	956	1,316	1,142	1,852	1,098	1,181	1,207	1,432	1,145	1,370	1,474	1,527
その他	11	11	11	10	10	10	10	10	10	10	10	10	11	10	10	10
売上高合計	2,706	4,077	3,822	5,596	2,606	3,965	4,139	6,274	2,951	3,519	3,467	5,810	3,342	4,346	5,813	8,035

営業利益	2016年3月期				2017年3月期				2018年3月期				2019年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
輸送機器	▲488	▲116	▲254	221	▲338	▲107	▲44	717	▲515	▲286	▲168	703	▲386	▲54	529	897
産業機器	14	32	24	56	▲4	45	44	229	▲48	▲1	39	86	▲16	24	45	21
その他	1	1	1	2	0	1	1	0	1	1	1	2	1	1	0	0
全社・消去	▲22	▲31	7	▲20	▲17	▲14	▲14	▲16	▲11	▲15	▲12	▲12	▲13	▲12	▲11	▲8
営業利益合計	▲495	▲114	▲221	259	▲359	▲75	▲12	931	▲573	▲302	▲139	780	▲414	▲40	564	911

LECIP

GROUP

レシップホールディングス株式会社

【資料お問合せ先】

管理本部 経営管理部

電話番号：(058)323-7647

【将来予測について】

本資料のうち業績見通し等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づき算定しており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が見通しの数値と異なる結果となり得ることをご承知おきください。